

## 宮城県北部伊豆沼・内沼周辺におけるミヤマガラスの越冬状況

嶋田哲郎<sup>1</sup>・アロン ボーマン<sup>2</sup>

1. 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 〒989-5504 宮城県栗原郡若柳町字上畑岡敷味17-2
2. North-western College, 3003 Snelling Avenue, North St Paul, USA.

ミヤマガラス *Corvus frugilegus* はヨーロッパから中国にかけてのユーラシア大陸の広い範囲に分布する (Cramp *et al.* 1994)。日本では九州地方を中心とした西日本に冬鳥として飛来するとされてきた (小林 1985)。しかし近年、北海道から東北、北陸のこれまで越冬記録のなかった地域において本種の記録が認められる (たとえば日本鳥類目録編集委員会 2000, 山本ほか 2000)。これらのことから、日本においてミヤマガラスの越冬分布域が拡大していることが予想されるが、その様相はよくわかっていない。越冬期の分布動態を明らかにするためにも、さまざまな地域でミヤマガラスの飛来状況を正確に把握することが重要になる。ここでは、宮城県北部にある伊豆沼・内沼周辺で記録されたミヤマガラスについて、その越冬状況をまとめたので報告する。

### 調査方法

調査は宮城県北部の伊豆沼・内沼 (38°43'N, 141°06'E, 387ha, 海拔 6 m) で行なった。ラムサール条約に指定されているこの沼は、日本におけるガンカモ類のもっとも重要な越冬地のひとつである。迫川の後背湿地として形成され、沼の沿岸はヨシ *Phragmites communis* やマコモ *Zizania latifolia*、沼面ではハス *Nelumbo nucifera* やヒシ *Trapa natans*、ガガブタ *Nymphoides indica* などが優占する。

調査は1994年4月から1999年12月にかけて月1～5回の計188回、総観察時間1,504時間行なった。ただし1995年5月と8月、1997年1～2月には調査は行なわれなかった。沼岸延長20kmの沼に100m幅の15本の調査コースと14か所の定点を設置して、7～15時に自転車で移動しながら調査を行ない、種ごとの個体数を記録した。調査には10×35倍の双眼鏡と30×67倍の望遠鏡をもちいた。

### 結果および考察

ミヤマガラスは1994/95、1995/96、1996/97の3年間は記録されなかった。伊豆沼・内沼周辺での最初の記録は1997/98の冬期で、1998年2月7日に100羽、同14日に20羽、3月2日に400羽が記録された (図1)。次の年の1998/99の冬期には1998年10月3日に105羽の最初の群れが記録された。11月30日には記録されなかったが、12月までに100羽以上、最大で250羽の群れ (11月14日) が観察された。

---

2000年11月27日 受理

キーワード：伊豆沼・内沼、越冬記録、ミヤマガラス

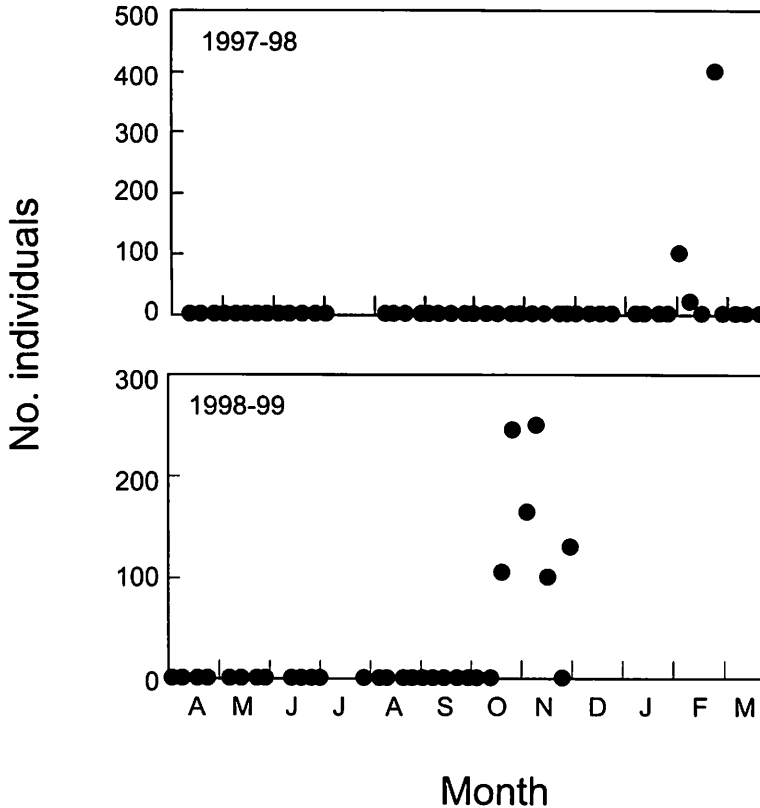


図1. 宮城県北部伊豆沼・内沼周辺におけるミヤマガラスの個体数変動 (1997-1999年)  
 Fig. 1. The fluctuation in the number of Rooks around Lake Izunuma-Uchinuma, northern Japan, in 1997-1999.

宮城県内の記録をみると、1996/97の11～3月に仙台以北の水田地域を中心に100～400羽ほどの群れが記録され、1997/98の冬期には分布の記録が県内全域に広がった(日本野鳥の会宮城県支部 1997, 1998)。伊豆沼・内沼周辺でのデータも合わせて考えると、ミヤマガラスは1996/97の冬期に宮城県北部に定着し、翌1997/98には県内各地に分布を拡大した可能性が高い。また、1997/98には10月から3月にかけて観察され、この時期が県内におけるミヤマガラスの越冬期間と考えられる。しかし伊豆沼・内沼周辺では、2～3月にかけて3回しか記録されなかった。これは春の渡り前の移動中における一時的な飛来と考えられる。

1998年の8月下旬に伊豆沼・内沼では大規模な洪水があり、およそ200haの水田が1か月間冠水した(Shimada *et al.* 2000)。そのため10月以降、通常の年には刈り取られてしまうはずのモミが水田に大量に残った。ミヤマガラスは農耕地で穀類や昆虫類を主に採食する(Cramp *et al.* 1994)。1998/99におけるミヤマガラスの初認日は1997/98よりも大幅に早かったが、こうした食物資源量の増加が関係しているかもしれない。

ミヤマガラスの群れは山形県や秋田県など東北6県の広い範囲でこれまで記録されているが、より南に位置する栃木県では2000年1～2月にかけて150羽ほどの群れがはじめて記録さ

れた(平野ほか 2000)。このことはミヤマガラスが北関東へも分布を拡大しつつあることを示唆している。

立教大学の上田恵介博士には、原稿を読んでいただき貴重な助言をいただいた。日本野鳥の会研究センターの黒沢令子氏と日本野鳥の会栃木県支部の平野敏明氏、東北大学の田村将剛氏にはミヤマガラスに関する情報をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

## 引用文献

- Cramp, S., Perrins, C.M. & Brooks, D.J. (eds). 1994. Handbook of the Birds of Europe, the Middle East and North Africa, Vol. VIII Crows to Finches. Oxford University Press, Oxford.
- 平野敏明・君島昌夫・小堀政一郎. 2000. 栃木県におけるミヤマガラスの初めての確実な記録. *Accipiter* 6: 23-26.
- 小林桂助. 1985. 原色日本鳥類図鑑. 保育社, 大阪.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会, 京都.
- 日本野鳥の会宮城県支部. 1997. 鳥信. 雁 (161)-(163), (166).
- 日本野鳥の会宮城県支部. 1998. 鳥信. 雁 (167)-(169).
- Shimada, T., Bowman, A. & Ishida, M. 2000. Effects of flooding on a wetland bird community. *Ecol. Res.* 15: 229-235.
- 山本浩伸・桑原和之・竹田伸一・平田豊治・中川富男. 2000. 河北潟の鳥類相. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 8: 1-23.

## Records of Rooks wintering around Lake Izunuma-Uchinuma, northern Japan.

Tetsuo Shimada<sup>1</sup> & Aaron Bowman<sup>2</sup>

1. The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation. 17-2 Shikimi, Wakayanagi, Miyagi 989-5504 Japan.
2. North-western College, 3003 Snelling Avenue, North St Paul, USA.

The wintering population of Rooks *Corvus frugilegus* was recorded around Lake Izunuma-Uchinuma, Miyagi Prefecture, northern Japan, during April 1994 - December 1998. Of 188 counts, no rooks were recorded in 1994/95, 1995/96 and 1996/97. The first observation was of more than 100 birds seen three times in February - March 1997/98 and six times in October - December 1998/99. The rooks had spread over the Tohoku area by the 1998/99 winter, and were recently recorded in Tochigi prefecture, to the south of the Tohoku area, in January 2000. This indicates that the winter distribution of the rook will probably expand further south from Tohoku into the northern Kanto area.

*Key words:* *Corvus frugilegus*, *Lake Izunuma-Uchinuma*, *Rook*